

令和6年 第869回小浜市教育委員会定例会 会議録

開催日時	令和6年7月25日(木)		開会 15:30 閉会 16:20		
開催場所	市庁舎4階401会議室				
出席委員	窪田教育長	上田職務代理者	村上委員	坂下委員	桂田委員
欠席委員					
事務局	谷教育部長	畑田教育部次長	日比野生涯学習 スポーツ課長	井上課長補佐	赤崎課長補佐
	安田企画主査	大橋指導主事			
傍聴者					
会 議				会議の結果	
<p>委員会開会</p> <p>(教育長) 宣言および開会あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の働き方改革について <p>一学期が無事修了し夏休みに入ったが、新型コロナウイルス感染症が第11波に突入し患者数が増加している。また、連日の猛暑の中、部活動や学校行事において熱中症も心配されるが、各学校で抜かりなく対応策を進めていただいているところである。</p> <p>また、前期の学校訪問については、教育委員の皆様にもご参観いただき大変お世話になった。今年度は学校DXの推進を最重点目標に掲げ取り組んでいる。後ほど主導主事から報告をさせていただくので、委員の皆様のご意見等を賜りたい。</p> <p>1 会議録の承認について</p> <p>第868回教育委員会定例会会議録 《承認》</p> <p>会議録署名人2名の選任</p> <p>第869回教育委員会定例会会議録署名委員選任 《上田職務代理者、桂田委員》</p>					

2 報告

・報告第11号 諸般の報告 令和6年6月18日～令和6年7月24日

行事予定 令和6年7月25日～令和6年8月31日 《承認》

教育長 8月30日開催予定の桂福丸さんの宿題カフェについて、日程調整の状況はどうか。

事務局 2学期の始業式当日の開催となるが、日程の変更はない。

教育長 各学校へ協力を依頼するなど、参加者募集の方法を検討し対応していただきたい。

上田職務代理者 ふれあいスクールについて、職員室をカーテン等で仕切って医務室のような設備を設ける予定であると聞いていたが、どうなったか。

事務局 確認し、後日報告させていただく。

教育長 教育委員の皆様へ、ふれあいスクールを見学していただければどうか。

事務局 日程を調整し、連絡させていただく。

村上委員 7月13日に行われた、部活動地域移行に係る県と若狭4市町情報交換会の内容をお聞かせいただきたい

事務局 各市町の現状について情報交換を行った。どの市町も本市と同様の課題を抱えている状況であることを確認した。今後も引き続き情報交換を行っていく予定である。

村上委員 市町で連携できることがあれば、連携して進めていただきたい。

教育長 どの市町も指導者不足が課題になってきており、広域的なチーム編成等も視野に入れて、このような会が設けられている。

3 教育長報告

・前期学校訪問を終えて

授業・校務・研修のDXを相似形で推進していけるよう、4月に立ち上げたDX推進組織を中心に、PDCAサイクルのDo（実践）からスタートし、できることからやってみるという実践を積み上げ、学校間で情報共有を行いながら今年度末の計画の策定につなげていってほしいと各校へお願いしている。特に、授業DXについてはデジタル技術を活用することによって子どもたちの学びを変革していく。具体的には、単線型授業から複線型授業へシフトしていくにあたり、児童の発達段階や教科の内容によってどう進めるのかも含め、実践を積み重ねる中で課題を洗い出して

整理することが今年度の大きな「ねらい」である。1学期の学校訪問を終え、学校ごとまた学級ごとに差はあるが、市内小中学校全体としてDXに向かって確実に前進していると感じた。そういった点を含め、指導主事から報告させていただく。

大橋指導主事 5月中旬から7月上旬にかけて、6校（加斗小、中名田小、小浜小、今富小、小浜美郷小、小浜第二中）を訪問した。特に若手教員を中心にICT、タブレット端末を活用した授業が展開されており、どの学校においてもICTを取り入れた授業を試みようとする姿が見られた。授業後の職員研修においても、タブレット端末の活用や、グーグルアプリを使用した研修が行われており、ペーパーレス化が進んでいた。一般参観授業においても、小学校では低学年から3S学習を基軸にした授業がベテラン教員を中心に展開されており、中学校では授業の複線化に向け模索している様子が色濃く見られた。

課題として、学校・学級ごとに取り組みに差がみられたため、夏季休業中に実施される研修やDX推進本部の会議等で、教職員の意識が高まるような内容の研修を企画している。また、2学期には今年度のリーディングDXスクール事業の指定校2校の発表があり、その発表に向けて校内研修を公開していくので、教育委員の皆様にもご参加いただき、確認していただきたい。

教育長 リーディングDXスクール事業の指定校である雲浜小学校と小浜中学校の発表に加え、昨年度から研究を進めている小浜美郷小学校と小浜第二中学校も、学力向上の指定校として二年間の研究の成果を、それぞれ授業を通じて発表することになっているので、ご出席いただくとありがたい。

村上委員 小浜第二中学校の授業を参観し、素晴らしい授業に感動したが、図書室に鍵がかかっていたことが非常に残念であった。DXが進み自分で検索して学習を進めることが多くなる中、様々な情報に触れるという点において、図書室は自分の意図したものではない情報にも触れる機会であると思う。多感な時期に様々な情報に触れることができるよう、何とかオープンな図書室にしていっていただけないか。

教育長 重要な指摘をいただいた。今後、DXが進展する中で、図書室がラーニングセンターとしての機能をどのように果たしていくのか、一方で、読書離れが進む中で電子書

籍が図書室の役割を果たすことができるのか等、本質的に子どもたちの学びに関わってくる問題でもあるので、校長会において検討していただこうと思う。

・教育再生首長会議の報告について

7月17日（水）に開催された教育再生首長会議の勉強会の内容が、非常に斬新な発想に基づくものだったので報告させていただく。

以前から「学社連携」といわれてきたが、“連携”ではなく「学社融合」の発想に立って進めていくべきであるという内容であった。学校施設をもっと有効活用しない手は無い。例えば、特別教室（理科室、家庭科室、図工室等）は年間170日も使用されずに空いている。他の教室も児童生徒が在籍している時間以降は空いている。かつて、少子化の中で空き教室が目立って増えてきた小規模校において、公民館的機能と学校機能を併せ持った施設として活用する学社融合的な取り組みが広まった地域もあるが、そのように学校施設の中で様々な世代の大人が生涯学習に取り組み、大人と子どもの交流も行うといったことを、民間活力を導入して合理的な運営管理で行っていくといった構想をしていく時代に来ている。このような新しい発想で学校施設を考えていくことが、地域の活性化にも繋がっていくといった主旨であり、傾聴に値する内容が非常にたくさんあった。講師の大竹教授は「学校というハコモノが日本を救う」（白秋社発行）という書籍を出版されているので、ぜひご一読いただきたい。

5 その他 なし

委員会閉会 （教育長）宣言

この会議録が真正であることを確認して署名する。

小浜市教育委員会議事録署名委員

委 員 上田 俊彦 教育長職務代理者

委 員 村上 郁子 委員